

国経研だより No.76

神奈川大学 国際経営研究所
〒220-8739 神奈川県横浜市西区みなとみらい 4-5-3
みなとみらいキャンパス 11007
TEL 045-664-3710(内線 4100)

今号の内容

- P.1-2 数学からファイナンスへ／上村 昌司
- P.2-3 資料探しにともなう喜怒哀楽／兒島 峰
- P.4 国際経営研究所長交代のお知らせ
- P4 国際経営研究所からのお知らせ



数学からファイナンスへ

上村 昌司

2023年4月に着任しました上村です。よろしくお願いいたします。私は博士(理学)の学位を取得していますが、「理学」なのになぜファイナンスが専門なのか、またなぜ経営学部なのかと疑問に思われる方もおられるかもしれません。この機会に、これまでの研究経歴を紹介させていただきたいと思います。

大学では理学部情報科学科に所属していました。当初、数学を学びたいと思っていましたが、数学に正面から取り組むほどの能力は持っていないとも感じていたため、数学を応用した研究ができる情報科学科を選択しました。情報科学科では数学の他にもコンピュータやネットワークの基礎を学ぶことができました。当時はインターネットが普及し始める少し前の時期であり、電子メールやWorld Wide Webが徐々に一般に普及していく様子を目の当たりにすることもできました。コンピュータ関連の研究にも興味が惹かれましたが、最終的には関数解析という数学の一分野を学ぶ研究室に所属しました。関数解析の立場から最適化理論を分析する「Optimization by Vector Space Methods」(David G. Luenberger) という本

に魅了され、これを教科書に研究を進めました。博士課程では関数解析を応用した最適化理論の研究を行い、学位を取得しました。

学位取得後は、就職となるわけですが、当時数学のポストを得るのは難しく(私自身の実力不足もあります)、進むべき方向を模索していたときに、新設の社会人大学院からネットワーク管理の助手の話が舞い込みました。ネットワーク管理の仕事をしながら自分の研究をしようと思ったので、迷わず着任しました。大学で学んだネットワークの知識がここで役立ちました。その社会人大学院では金融工学やファイナンスの教育・研究を行っていました。私はネットワーク管理の傍ら、先生方の授業や研究の補助も行っていました。そこで気付いたのが、金融工学で使用される数学は私が研究してきた数学に非常に近いということでした。さらに、先に触れた「Optimization～」の著者である Lueberger が広く読まれている金融工学の教科書「Investment Science」を執筆しているではありませんか。それなら、自身にもできるに違いないと考え、周囲の先生方の勧めもあり(当時は金融工学の研究者が少なかった)、金

融工学・ファイナンスの研究を始めました。

その後、別の大学の経済学部でファイナンス担当の教員として活動することになり、研究もファイナンスに移行しました。しばらくすると、AIという言葉をよく耳にするようになりました。AIは昔から研究されていた分野ではありませんが、現在のAIブームは以前とは異なるもののように感じました。そこで、現在のAIについて調べてみようと思い、書籍や論文を読み漁ったところ、今日のAIブームの原動力は機械学習、特に深層学習（ディープラーニング）の進化にあることを理解しました。また、機械学習とは要するに最適化理論の一種であること、そして私が博士論文で研究していた手法が機械学習で利用されていることもわかりました。またしても、これなら私にもできると感じ、

機械学習の研究を始め（再開？）ました。同時に、学部ではデータサイエンス教育の整備にも取り組んできました。

自身の経歴を振り返ると、学生時代に学んだ数学が、私の研究の中で非常に重要な役割を果たしていることに気づきます。おそらく、これからもそれは変わらないと思います。最近では金融分野において暗号資産やブロックチェーン技術に注目が集まっています。ブロックチェーンの仕組みは数学的にも経済的にも興味深いものです。これからは、ファイナンスとAIやブロックチェーン技術などを融合した研究を行い、社会への貢献を目指したいと考えています。

（所員／かみむら・しょうじ）

資料探しにともなう喜怒哀楽

兒島 峰

わたしはフィールドワークに基づいた人類学研究をしている一方、映画に関する論文も発表している。映画館での上映以外にも鑑賞の幅が広がったことなどから、スペイン語はもちろんのこと、さまざまな映画にアクセスしやすくなった。とはいえ、論文執筆のためには何度も繰り返し確認する必要があるため、DVDは必須である。そして、実は、このDVD探しが、意外にも難しい。スペイン語作品に限らないのかもしれないが、タイトルや作品紹介にかなりの「嘘」が含まれている場合が少なくないのである。

『墮落のススメ』という日本語タイトルがつけられた2018年制作スペイン映画のDVDジャケットには、「過去を捨てる。欲望を解放する。墮落を楽しむ。」という文章とともに、作品のごく一部でしかないエロティックな画像が複数ちりばめられている。しかし、ストーリーは、

結婚を目前に控えた弁護士女性アナが、誰が見ても「良い子」だったこれまでとは違う人生があるのではないかと冒険するも、やはり、安定した信頼関係を望む主人公にはゆきずりの恋はできず、結局は過去を捨てきれずに元の生活に戻るといふものである。原題からみても、『白昼夢』あたりが妥当なタイトルではないだろうか。

もうひとつ、日本での紹介に幻滅したDVDがある。それは、『リベレイター』という日本語タイトルがつけられたベネズエラとスペインによる2013年制作作品で、ベネズエラ生まれのラテンアメリカ解放者シモン・ボリバルを描



いた壮大な歴史映画である。周知のとおり、スペインからの独立運動を指揮したボリバルは、「解放者」であり、日本でもスペイン語の発音のまま「エル・リベルタドール」と呼ばれる。それを、なぜ、英語風の発音表記にしたのだろうか。また、ストーリー紹介には「南米大陸の解放を目指して立ち上がるのだった」とあるが、ジャケット表紙には、「その男が勝ち取った領土は、アレキサンダー大王の2倍！！」とある。「勝ち取った」のではなく、「解放」したという歴史認識が欠けているようだ。しかも、裏表紙には、「魂の解放者」という不思議な紹介文がある。ボリバルは神父でも宗教家でもなかったのだが。

この作品の紹介者は、作品を観ていないのか。それとも、歴史認識の欠如ゆえに、ストーリーを理解できなかったのか…。

しかし、もっとも驚いたのは、優れた作家として20歳代の頃から注目を浴び、1980年代の日本におけるラテンアメリカ文学ブームの折にはその作品の数々が日本語に翻訳され、2010年にはノーベル文学賞を受賞したペルー出身のマリオ・バルガス＝リョサによる小説『パンタレオン大尉と女たち』を映像化した作品が、『囚われの女たち』という日本語タイトルとなり、なんと、アダルト作品扱いされていたことである。

バルガス＝リョサの作品には軍や権力への批判が込められているものが多く、『パンタレオン大尉と女たち』も、主人公パンタレオン大

尉の四角四面さがユーモラスなまでに強調されることで、軍への痛烈な批判となっている。そもそも「女たち」は「囚われて」などいないし、明るく生き生きとしたその姿は、大尉やその上官らとは対照的である。

それが、このような扱いを受けるとは…。

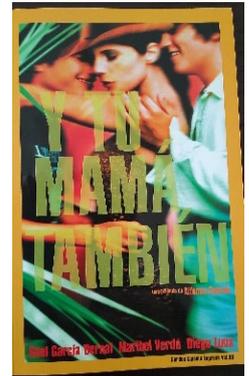
膝から崩れ落ちるほどのショックとは、まさにこのことである。

紹介者は、作品を観ていないのであろう。バルガス＝リョサという作家のことも、知らないのかもしれない。

それにしても…。

もちろん、絶妙なタイトルがつけられた作品もある。

原題から敢えて離れて『人生スイッチ』としたのは機転が利いているし、『天国の口、終わりの楽園。』は秀逸といえるであろう。



(所員／こじま・みね)

原稿募集中！ 2023年度国際経営フォーラム No.34

特集テーマ：『フェアネス』

申込締切：6月30日(金)

原稿締切：9月29日(金)

※査読の場合は9月20日(水)締切

発行予定：2023年11月30日(水)

期限厳守でお願いします

最近のテーマ

2022年度：ボーダー

2021年度：レジリエンス

2020年度：アフター・コロナ

国際経営研究所長交代のお知らせ

国際経営研究所の所長を、田中則仁先生から引き継ぎました。偉大なる前任者を心の底から尊敬していますので、基本的にこれまでの運営方針を尊重・継承していきたいと思えます。

ただし、パンデミックにより研究活動が大きく制約された3年間がようやく終わった時期の交代ですので、この機に改善や革新も追い求めようと思えます。新型コロナ以前の時期よりも、さらに活発な研究活動が行われるよう、活動環境の改善を積極的に進めていきたいと考えています。もちろん、新型コロナウイルスがなくなったわけではないので、必要とされる措置には留意しつつも、所員の調査研究や研究交流などが行いやすくなるよう、常にアップデートを心がけていきます。

このような前向きで革新的な姿勢を体現すべく、国経研だよりのデザインを刷新しました。研究所の寺本由紀子さんの多大なるご尽力により、すっかりリニューアルです。みなとみらいキャンパスの雰囲気にもとても良くマッチしていて、素晴らしくモダンで素敵な誌面に生まれ変わりました！新しい装いの国経研だより、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

青木 宗明（あおき むねあき）

国際経営研究所からのお知らせ

■ 2023年度研究所所員の構成数（4/1現在）

所員（専任） 37名
特任教員 10名
特別所員 2名
客員研究員 19名
常任委員 4名

<2023年度新任の先生のご紹介>

◇ 上村昌司教授（理学博士）

■ 2023年度研究所常任委員業務

所長 青木宗明

常任委員（4名）

杉田弘也 <イベント担当>
知花愛実 <地域連携担当>
吉留公太 <広報担当>（新規委員）
兒島 峰 <出版担当>（新規委員）

■ 2023年度共同研究プロジェクト/新規5件

➢ 世界観とブランド

（代表者：津村 将章）

- XR（クロスリアリティ）技術およびメタバースの教育利用（代表者：道用大介）
- 国際ビジネスコミュニケーションプログラム（IBC）の教育効果の検証：問題点の特定とさらなる改善に向けて（代表者：白石万紀子）
- 地域デジタルアーカイブの構築・活用方法に関する実証研究（代表者：飯塚重善）
- 自己ヘルスケアと身体活動促進のための運動量定量化（代表者：後藤篤志）

■ 客員研究員

<新規>

2023年4月1日～2026年3月31日

都留泰作（京都精華大学マンガ学部教授）

<更新>

2023年4月1日～2023年3月31日

亀山修一（国際経営研究所所員 2015～）